

【緒言】

- ・今回発生した未曾有の災害に対し、支援活動を考えていた有志が集まり相談。
- ・〔公立志津川病院〕歯科口腔外科部長・斎藤 政二先生とコンタクトを取り、趣旨を伝えると、先生自らが〔医療統括本部〕へ、活動登録手続きの労を執って下さる。
- ・「自立への取り組みの迷惑にならない様にしながら、その場での判断と決断を持って行動する事」と意識統一し、現地へ赴く。



- ・活動組織：文京区障害者歯科治療事業協力医を中心に集まった有志。
- ・有志詳細：歯科医師 5名， 歯科衛生士 3名， 歯科助手 1名， 介護福祉士 1名。
- ・活動場所：宮城県
南三陸町→登米市鱒淵町
→南三陸町志津川中瀬地区。
- ・活動期間：平成23年
①4月30日～5月5日 ②8月9日～8月12日



【経緯】

- ・登米市在住の知人より宿舎を提供して頂いた所,偶然その傍にあった旧鱒淵小学校(現・特養ほたるの郷)を利用して作られた避難所に,南三陸町から中瀬地区の住民約130人が,一括集団で避難していた.



- ・宿舎を提供して下さったOさん達. ・鱒淵の避難所. ・「皆で一緒に元の町へ戻りたい。」と佐藤区長.
- ・当初は志津川小学校・志津川高校・入谷小学校などで活動する事になっていたが,調べた所,ニーズはむしろこちらにあると判断. 本部へ連絡を入れ,予定を変更. 瓦礫の町から峠1つ隔てた〔鱒淵避難所〕を拠点として,活動を行う事とした.



- ・南三陸町・各避難所のすぐ下まで押し寄せた津波. 現地の歯科医院も流された.

【状況】



・[公立志津川病院] 津波は4階まで来た。
「屋上避難民,3日後に救出」は有名な話。

・自衛隊の活動。

・震災から1ヶ月で立ち上がった[仮設診療所]
当初,歯科は2時間半待ちだったとの事。

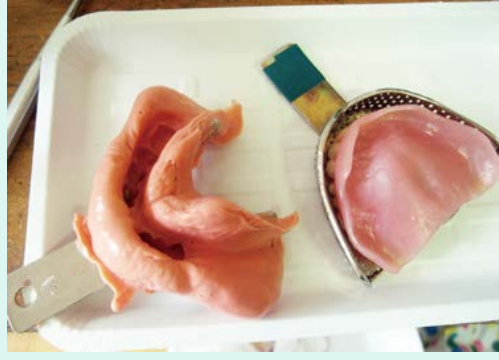


・多くの歯ブラシを含む支援物資。
しかし歯科医療の支援は無かった。

・この時点で,110人が生活していた[鱒淵避難所]の旧職員室にて
診療スタート。初日は夜8時まで。翌日は朝8時から準備。



・ポータブルユニット等を利用して
簡易診療室作製。



・義歯が流されたAさん。
「ずっと我慢していました。」
診療日時は限られている。

・通常では義歯製作に1ヶ月位必要だが、
即日義歯作製へ。
「今日中に仮の入れ歯を作ってみます。」

・4時間後、仮義歯完成。
「今夜は夕飯が
おいしいよ。」とAさん。



・同集団が避難している少し離れた2ヶ所の避難所、
〔ほたる会館〕と〔国際交流センター〕にも赴き対応。
少数であっても要望に答えるべく出向いた。

・特養1軒・老健2軒を訪問。その内の老健
〔歌津つつじ苑〕にて 支援物資を渡し、
一部利用者の口腔ケアを行った。



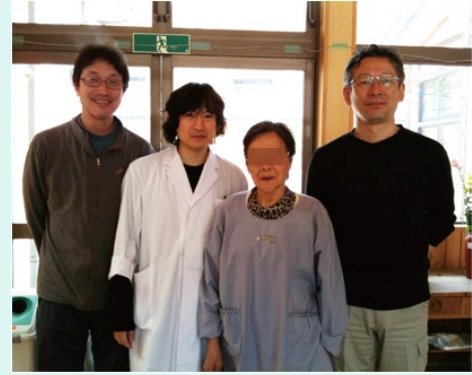
・仲間の歯科医、
田中 武久先生の
御好意により
提供された
往診車にて
訪問診療。



・〔志津川
ベイサイドアリーナ
総合体育館〕

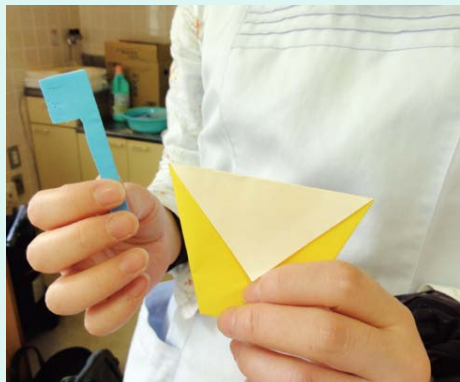
南三陸最大の
避難所・拠点。





・災害時に歯科の役割は？
身元確認, 歯科治療, 口腔ケア, そして対話。

・被災地へ, 何を携えに赴くのか？
「ふれあいに。」



・生活が再生して行く[これから]こそが, 歯科の出番。

・子供達が作製した折り紙のプレゼント。



・当ボランティアチーム。
診療所も地域も
別々だが,
意識・感覚が近ければ,
協働時の違和感は
少ない。

《第1回支援活動》は実働4日間で全対応人数は65人, 延べ80人であった。内容は歯科健診・指導・処置・口腔ケア・メンタルケアなどで, 主な具体的処置は, P処置, C処置, CR充填, TEK作製, 義歯の調整・修理・作製, であった。又, 各方面に迷惑をかけない様, 期間内での完結処置を心がけた。

【経過】

- ・帰京後、暫くして中瀬区の佐藤 徳郎 区長より、「目標であった[住民一括]で元の土地近くに作られる仮設住宅に入居出来る事になった。」との連絡あり。
- ・そこで、環境が変わる事より健康管理の点から、再び歯科の対応を依頼される。
- ・以前地元にあった5軒の歯科医院は再開するか分からず、医科はともかく歯科については当・有志チーム以外に当てが無いとの事。
- ・細く長い継続支援にて、復興した地域の先生方にバトンタッチして行ければ良いと考え、再度現地へ赴く事を決定。
- ・ほぼ同じメンバーにてチームを編成。初回同様、斎藤先生に連絡し手続きをして頂くと共に、宮城県歯科医師会にも連絡し、了承を得る。
- ・8月初頭には70戸一括で仮設住宅へ移動完了。
- ・よって《第2回支援活動》は、震災から丁度5ヶ月目の訪問で〔南三陸町志津川中瀬地区応急仮設住宅集会所〕を拠点に行った。



- ・中瀬区住民の団結と目標達成が、地元紙にて報道される。



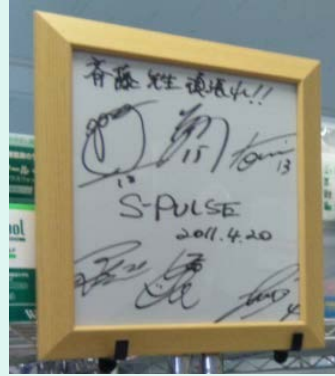
- ・元土地近郊仮設住宅への〔住民一括 帰還・入居〕は成された。が、あくまでも仮設であり契約期間は2年。次の段階は、集団の分散。〔別れ〕の寂しさが漂う。



- ・〔仮設集会所〕の一部を借りて簡易診療室作製。

- ・朝ミーティング。

- ・プレハブのコンビニエンスストア。復興の兆し。



・〔志津川病院仮設診療所〕の歯科室に赴き挨拶。診療所内を見学させて頂いた。齋藤先生が御苦勞をユーモラスにお話しされる。過酷な環境の中でも、勇猛果敢な行動力で仕事に励んでこられた先生のお人柄をよく表しているものと感じた。南三陸の星空に魅せられて23年との事。



・一緒に診療に携わっている阿部 公喜先生(志津川字大森町で開業、被災された宮城県歯科医師会理事)からもお話を伺った。住民が町外まで避難しているとは思いつかず、状況も把握していなかったとの事。9月には国の支援を受け診療所を再興するそうであるが、悪条件の中を通院して頂く困難さを考えると、訪問や搬送といった体制を考慮する必要性が示唆された。未だ課題は多く、継続支援をお願いされる。



・障害児・者や要介護高齢者について、生活と歯科医療の現状を把握するべく、〔南三陸町役場保健福祉課・地域包括支援センター〕を訪問。健康増進係の保健師からお話を伺った所、「現在の活動で精一杯であり、対応も情報も不十分である。」との事であった。



・そこで、5月に訪問した各施設を再度巡り情報収集。避難所となっていた老健施設〔ハイム・メアーズ〕は、7月より利用者が戻り生活していた。相談を受け、翌日2Fフロアの2つのユニット(10人×2)にて活動。



・破折したままの義歯に、人工歯の追加修理をする。



・P処置 & C処置.

・口腔ケア.

・カルテ記載.

・診療・ケア実績は15人.

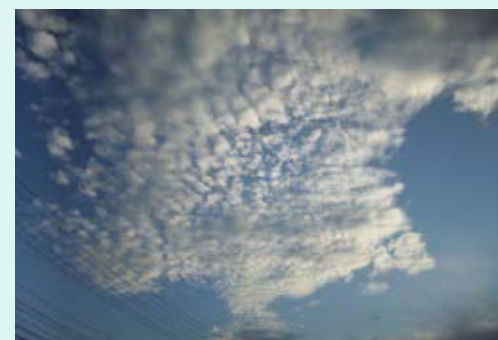


・廃墟となった特別養護老人ホーム〔慈恵園〕を視察.

・時が止まっている.



《第2回支援活動》は実働3日間で対応人数は30人,延べ37人であった。処置の具体的内容については初回と大きな違いは無かったが,個々の独立が得られた集合住宅形態となった点から,周知方法に回覧板やチラシを用いる等の工夫が,より必要であった。しかし大きな口腔トラブルが無かったという確認ができた事,様々な状況を把握できた事,そして避難所から仮設住宅へ移るという復興の節目に立ち会えた事は,大変有意義であった。



- ・メンバーは,各々が役割を自覚しており,特に命令が無くても,場面によって有機的に立場を交換し,事に当たる姿勢が,自然に成されていた。信頼し合える仲間の存在は,何よりの財産である事を再認識した。



- ・沼一面に咲いた蓮の花。「亡くなった方々全員が座れる位の 花の数が咲いていると良いと思いました。」(スタッフ談)

【結論】



- ・生活支援歯科として、『待つ』のではなく『行く』というスタイルで人と関わる。
- ・『こころ』でふれあい、些細な事でも出来る事・やれる事を行う。迷惑ならば無理しないで退く。
- ・復興の各段階における違いを理解し、アイデアを持って柔軟に対応する。
- ・能動的な気持ちから活動している為、その前後における精神的な変化は特に無いが、インパクトが有った事は事実である。当経験より南三陸町、特に中瀬区住民の方々の復興・生活・再生の過程を伝えて行く責務を感じた。今後も継続的な関わりを持ちたいと考えている。〈尚、その後の台風15号による被害は、幸いにも最小で済んだとの話であった。〉

【文献】

- (1)中久木 康一,編著:歯科における災害対策－防災と支援.第1版,7-21,24-59,62-83,86-97,124-151,砂書房,東京,2011.
- (2)斎藤 政二,他:被災地で再開した診療所.第1版,3-9,GCサークル138,東京,2011.
- (3)佐々木 啓一:大規模災害時の口腔ケア体制の構築に向けて－東日本大震災への対応を通して.第1版,12,摂食嚥下リハビリテーション学会チャリティーセミナー抄録集,東北,2011.
- (4)高橋 浩二,他:東日本大震災における昭和大学の医療救護活動－歯科の救護活動について.第1版,1-4,昭和大学歯科病院だより4,東京,2011.
- (5)佐藤 慶太,飯田 良平:緊急特集 東日本大震災.第1版,2-3,TUSDMvol.35-1,横浜,2011.
- (6)庄司 茂:東日本大震災における歯科医師活動報告－被災地の復興を願って.第1版,160-163,デンタルダイヤモンド5,東京,2011.
- (7)飯島 洋一:東日本大震災地区における在宅(巡回)と避難所での歯科診療活動と口腔ケア.第1版,149-151,デンタルダイヤモンド6,東京,2011.
- (8)藤 秀敏:生活を支える歯科医療が大震災に遭遇して(その1).第1版,18-19,日本歯科医師会雑誌vol.64-3,東京,2011.
- (9)藤 秀敏:生活を支える歯科医療が大震災に遭遇して(その2).第1版,90-91,日本歯科医師会雑誌vol.64-4,東京,2011.
- (10)原,岩佐,他:東日本大震災における身元不明遺体確認作業報告.第1版,18-19,東京都歯科医師会雑誌第59巻第4号,東京,2011.
- (11)加藤浩一 他:東日本大震災における海上自衛隊歯科活動報告.第1版,179-183,デンタルダイヤモンド8,東京,2011.
- (12)中久木 康一:福祉分野に歯科医療は届いているか(その1).第1版,20-21,日本歯科医師会雑誌vol.63-11,東京,2011.
- (13)渡邊 充春:福祉分野に歯科医療は届いているか(その2).第1版,18-19,日本歯科医師会雑誌vol.63-12,東京,2011.
- (14)野村 慶馬,他:震災でわかった歯と食のはなし.第1版,1-146,神戸市歯科医師会,新風書房,兵庫,1995.
- (15)田中 義弘,他:阪神・淡路大震災と歯科医療.第1版,1-149,兵庫県病院歯科医会,兵庫,1996.
- (16)坪井,石井,他:阪神・淡路大震災神戸市災害対策本部衛生部の記録.第1版,1-253,神戸市衛生局,兵庫,1996.
- (17)災害時歯科医療救護活動マニュアル.第1版,1-71,東京都衛生局医療計画部救援災害医療課,東京,1997.
- (18)災害時医療救護活動マニュアル.第1版,1-53,東京都衛生局医療計画部救援災害医療課,東京,1996.
- (19)中井 久夫,編:1995年1月・神戸－「阪神大震災」下の精神科医たち.第1版,1-7,14-[23][39-45]-97,98-263,みすず書房,東京,1995.
- (20)中井 久夫:災害がほんとうに襲った時－阪神淡路大震災50日間の記録.第1版,2-27,30-130,131-139,みすず書房,東京,2011.
- (21)中井 久夫:復興の道なかばで－阪神淡路大震災一年の記録.第1版,2-41,42-46,47-175,みすず書房,東京,2011.
- (22)大竹 邦明,中澤 清,他編:障害者歯科医療ハンドブック.第1版,2-9,58-65,77-109,121-125,東京都立心身障害者口腔保健センター,東京,2003.